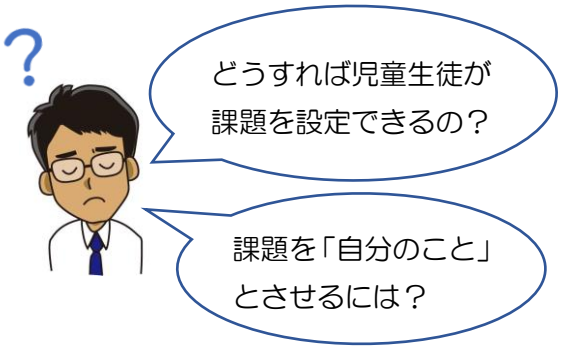
3．単元計画の作成・見直しに当たって
（1）このようにしてみませんか？

課題の設定



～こうなっていませんか？～

- ●課題設定までの時間が十分でない。
- ●教師が一方的に課題を与えている。
- ●子供たちの興味・関心が高まっていない。

「いかに課題意識を持たせるか」

児童生徒が探究的な学習を主体的に進めていくためには，その学習を持続させる「原動力」が必要です。そのためにも，設定した課題が児童生徒にとって「自分のこと」となり，解決したいという思いを強く持たせることが重要です。「調べたい！」「考えたい！」というわくわく感を持たせるためにも，教師の働き掛けや教材との出会わせ方が大切です。

○教材との出会わせ方を工夫

「初めて知った！」「えっ！そうだったの？」「どうして？」などを引き出すように工夫し，児童生徒の興味・関心を高め，必要感を持たせるようにする。

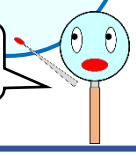
○体験活動を充実

地域の大人との交流，ボランティア活動や祭りへの参加といった社会活動など，対象に直接触れることで，新たな気付きや疑問を引き出すようにする。そのための時間を十分確保する。

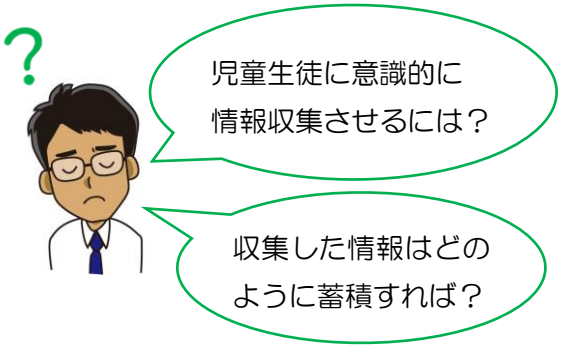
○教師の問い掛け・具体の提案

「どこを特に調べたいか」「調べてどうしたいか」などと問い，児童生徒の疑問や課題の焦点化を図るようにする。

このようにしてみませんか？



情報の収集



～こうなっていませんか？～

●インターネットでの情報収集のみになっている。
●体験的な情報収集を設定していない。
●集めた情報が後の活動に生かされていない。

「多様な情報収集と適切な蓄積」

インターネットによる情報の検索は，児童生徒にとって身近で取り組みやすい情報収集の手段です。しかし，そればかりが情報源とならないように，観察，実験，見学，調査，探索，追体験などの体験活動を学習活動に取り入れ，様々な情報源から，自覚的または無自覚的に情報収集することが大切です。さらに，収集した情報を「整理・分析」の過程で活用できるように，場所や情報源などに分類しながら蓄積させることが重要です。

○体験活動を充実

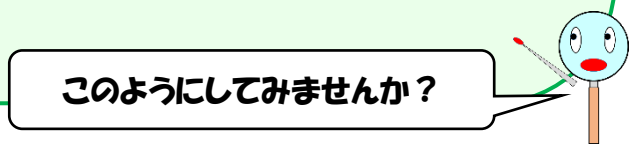
相手の思いやその場の様子や匂いなど，対象に直接触れたからこそ得られる情報を大切にし，児童生徒の興味・関心を高めるようにする。

○収集する情報の種類（数値，言語，感覚）に応じた学習活動を設定

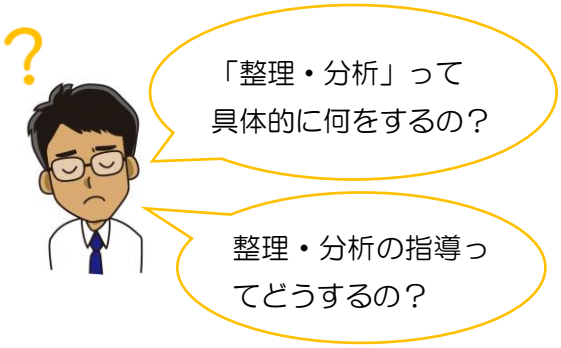
特に「感覚的な情報」は貴重なため，感覚が薄れないうちにレポートや振り返りを書かせるなど，言語化させる。

○その後の学習活動を視野に入れた蓄積と共有

紙ファイルやクラウドを利用し，初めは時系列に蓄積し，その後内容ごとにまとめさせる。また，必要に応じて集めた情報を教室や廊下に置いておき，いつでも誰でも見られるようにしておく。



整理・分析



～こうなっていませんか？～

●収集した情報の分析が十分でない。
●情報共有はするものの，発表して終わりになっている。

「情報を基にした活発な思考」

単純な調べ学習にならないようにするためには，整理・分析の充実が欠かせません。そのためには，収集した情報を比較したり分類したりして情報を整理し，そこから関係性や因果関係などを考えていくことが大切です。整理・分析を充実させることが，収集した情報や得た知識を概念的に理解することにつながり，他教科等や実生活・実社会で生きる資質・能力の育成につながります。

○獲得した情報の吟味

当事者から直接得た情報かインターネット上の情報かといった情報の入手先や，客観的なデータか個人的な意見かといった情報の性格などを踏まえて整理させる。

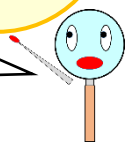
○「考えるための技法」の活用

収集した情報を，個人またはグループで，比較，分類，序列化，類推，関連付け，原因や結果に着目するなど，様々な技法で分析させる。

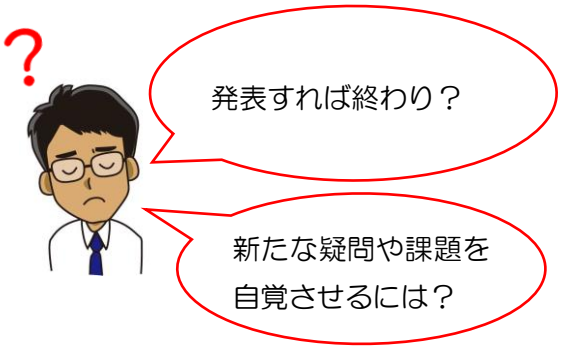
○「思考ツール」の活用

ＫＪ法，ベン図など様々な思考ツールや ICT を活用し，思考を可視化させた上で，分析したり話し合わせたりする。

このようにしてみませんか？



まとめ・表現



～こうなっていませんか？～

●調べたことを読むだけの発表になっている。
●発表が終わると活動が終わり，活動が連続的・発展的になっていない。

「考えを発展させ，新たな課題を持つ」

新聞や模造紙などに調べたことや考えたことをまとめて，発表することが目的ではありません。それらを通して，児童生徒一人一人の考えや課題がより一層鮮明になったり，新たな課題を持たせたりすることが大切です。そうすることで，学習が質的に高まり，表面的ではない深まりのある探究的な学習となります。

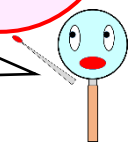
○相手意識や目的意識

何を目的とした活動だったのか，単元の課題や各自が設定した課題を確認し，内容や主張を明確にさせる。必要に応じて内容を再構成させる。

○考えや新たな課題の自覚

振り返りの視点を示したり，発表を聞いた人に講評をもらう場面を設定したりすることで，自らの学びを自覚させたり新たな課題に気付かせたりする。

○伝えるための方法を身に付ける

新聞やポスターにまとめる，ＩＣＴを活用する，ものづくりや伝統芸能の伝承活動など，具体的な方法を身に付け，目的に応じて選択できるようにさせる。

このようにしてみませんか？